



15:1 柔らかな答えは憤りを鎮め、激しいことばは怒りをあおる。
 15:2 知恵のある者の舌は知識をうまく用い、愚かな者の口は愚かさを吐き出す。
 15:3 【主】の目はどこにもあり、悪人と善人を見張っている。
 15:4 穏やかな舌はいのちの木。舌のねじれは霊の破れ。
 15:5 愚かな者は自分の父の訓戒を侮る。叱責を大事にする者は賢くなる。
 15:6 正しい人の家には多くの富がある。悪しき者の収穫はわざわいをもたらす。
 15:7 知恵のある者の唇は知識を広める。愚かな者の心はそうではない。
 15:8 悪者のいけにえは【主】に忌み嫌われ、心の直ぐな人の祈りは主に受け入れられる。
 15:9 【主】は悪しき者の道を忌み嫌い、義を追い求める者を愛される。
 15:10 道を捨てる者には厳しい懲らしめがあり、叱責を憎む者は死に至る。
 15:11 よみと滅びの淵は【主】の前にある。人の子らの心はなおさらのこと。
 15:12 嘲る者は叱られることを好まない。知恵のある者にも近づかない。
 15:13 喜んでいる心は、顔色を良くする。心の痛みの中には、打ちひしがれた霊がある。
 15:14 悟りのある者の心は知識を求めるが、愚かな者の口は愚かさを食いあさる。
 15:15 悩み苦しむ者の毎日は悪いことのみ。心に楽しみのある人には毎日が祝宴。

「柔らかな答え」とは、表現の仕方や物腰の問題でしょう。内容が間違っていなければ良いというものではないことが分かります。「知恵」があるだけ

でなく、それをうまく用いることが大切ですから、私たちは動機や目的、そして結果が求められます。「舌のねじれ」のようにことばでうまくいかないときは、「霊の破れ」のように信仰の問題かもしれません。

「悪しき者の収穫」というように、悪いことでも利益をもたらすこともあります。結果的には「わざわい」を刈り取っていることを知りましょう。また悪いものはどんなに宗教的であっても、「いけにえ」も「道も」受け入れられません。主の前に正しく歩みましょう。

「よみと滅びの淵」のように計り知れないところで、主にとっては「前にある」ように手に取るように知られています。まして「人の心」などは「なおさら」で、主には全て知られているのですから、主の前には正直なものでありましょう。

毎日は「悪いこと」と「楽しみ」の繰り返しですが、主にあっては全てが益となります。その信頼と感謝で生きるなら、「毎日が宴会」のように、喜びになるでしょう。要は私たちの信仰なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

